

令和6年度第1回 第3次半田市地域福祉計画策定委員会会議要旨

開催日時	令和6年11月1日（金）	10時00分～12時00分
開催場所	アイプラザ半田 小ホール（2F）	
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 委員長選出・委員長あいさつ 4. 議事 （1）報告事項 ①地域福祉計画に係る令和5年度事業報告 ②地域福祉の現状と課題について （2）協議事項 ①第3次地域福祉計画の策定体制及びスケジュールについて ②市民アンケートについて 5. その他（連絡事項等） ・第3次半田市地域福祉計画策定キックオフ講演会の開催について ・ふくしのお仕事紹介イベントについて	
出席者	【委員】 ◎は委員長 ◎原田 正樹、石井 義廣、関 鋼太郎、中村 力章、井戸 千尋、山崎 千佳、森川 武彦、立石 佳輝、天野 真弓、柳野 敬子、山田 伸吾、田窪 英樹、榊原 かおる 【半田市 関係課】 福祉部長 竹部 益世、生活援護課 長谷川 信和、高齢介護課 沢田 義行、健康課 木村 智恵子、子ども育成課 小林 徹、子育て相談課 三輪 象太郎、学校教育課 高橋 直登 【半田市社会福祉協議会】 事務局長 小野田 靖、ボランティア地域ささえあいセンター 松本 涼子、障がい者相談支援センター 加藤 恵 事務局 地域福祉課 山本 勇夫、村上 裕子、川口 一美、加藤 裕加、黒野 隼	
次第	議事概要	
1. 開会	（地域福祉課長） ・令和6年度第1回半田市地域福祉計画策定委員会を開会します。 ・本日は、知多地域権利擁護支援センターの今井委員・半田市ふくしまるごと会議の柴田委員が欠席です。	

	・市等関係者のうち、半田市社会福祉協議会前山次長の代理で、ボランティア地域ささえあいセンター長 松本 涼子氏、半田市障がい者相談支援センター長 加藤恵氏に出席いただきます。また、竹内健康課長の代理で、同課 木村副主幹が出席します。 ・委員 15 名中、13 名の出席があり、半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第 7 条第 2 項に規定する半数以上の出席があることから本会議は成立しています。
2. 委嘱状交付	(地域福祉課長) ・第 3 次半田市地域福祉計画の策定にあたり、市民の「ふだんのくらしのしあわせ」の充実に繋がるものとなるよう、様々な立場の皆さまに委員就任のお願いをさせていただきました。 ・本来であれば、委員の皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しさせていただくところですが、机上に置かせていただき、これをもって委嘱状の交付に代えさせていただきます。委員の任期は第 3 次計画が完成するまでの期間、令和 8 年 3 月 31 日までです。 ・委員・市及び半田市社会福祉協議会の自己紹介を行います。 (自己紹介)
3. 委員長選出・委員長あいさつ	(地域福祉課長) ・半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第 6 条第 1 項により、委員長は互選により選出頂きます。推薦等ございませんか。 (立石委員) ・原田委員を推薦します。 (他の委員) ・異議なし。 (地域福祉課長) ・「異議なし」とのご承認を頂きました。原田委員、よろしくお願いします。 ・原田委員長は平成 22 年策定の第 1 次地域福祉計画の準備時から、15 年を超え本市の地域福祉のデザインに多大なご協力をいただいてまいりました。改めて、第 3 次の計画策定へのご指導をお願いするのと同時に、本委員会のスタートにあたり、半田市の地域福祉について、現状と目指すべき方向性などを委員に皆さまにお話をいただきたいです。 (原田委員長) ・委員のみなさまから活発な意見をもらい、半田市のこれからを考える良い地域福祉計画を策定していきたいのでよろしくお願いします。 ・議事の前に、委員長あいさつを兼ねて第 3 次半田市地域福祉計画を策定するにあたり、委員の皆様と共有したい点等をお話しします。 ・第 1 次半田市地域福祉計画は、2010 年に策定、第 2 次半田市地域福祉

計画は2021～2025年の期間となっており、現在が第2次半田市地域福祉計画のまとめに差し掛かっています。そのため、今後の委員会では、第2次半田市地域福祉計画のまとめと、第3次半田市地域福祉計画に向けての議論を行い、2026年からスムーズに第3次半田市地域福祉計画が始まるようにしていきます。

- ・第1次半田市地域福祉計画では、半田市の地域福祉をどのように作ったらよいか、ワークショップ等を行い、半田市の地域福祉の方向性を議論しました。その際に象徴的だったのは、地理的に広くない半田市に住む、約12万人の人々が、何かあれば、市役所や、社会福祉協議会に相談に来るという仕組みを作ろうというのが第1次半田市地域福祉計画でした。
- ・しかし、半田市は1つといっても、地域ごとに地域特性があり、それを踏まえた地域福祉にしていくために、1か所で何かするのではなく、中学校区や小学校区という単位を大切にしながら、行政や社会福祉協議会と、半田市に多くあるNPO等が、アウトリーチ（専門職が外に出かけていき、ニーズをキャッチする）の仕組みを作っていこうと、第1次半田市地域福祉計画を推進する際に意見がでてきました。その中で、どのようなことをしたらよいか議論し、さまざまな事業が出てきたのが第1次半田市地域福祉計画の特徴です。
- ・第2次半田市地域福祉計画では、さまざまな事業を、ブラッシュアップして形にしていこうということで計画が作られ、現在ひとつひとつの事業をしっかりと定着させてより良いものにしていくことを半田市で行っています。
- ・今までの計画を踏まえ、第3次半田市地域福祉計画では、仕組みをどうしていくか皆さんと議論していかなければいけないと考えています。半田市は、社会福祉施設や多くのNPO、住民の皆様が、自分の地域を良くしたいと多くの取り組みをされており、1つ1つの取組はとてもいいと思います。それをどう仕組みにしていくかが第3次半田市地域福祉計画の課題と感じています。半田市は、包括的支援体制が曖昧なため、どのような包括的な支援の仕組み・体制を整備するのが大切になってきます。
- ・1つ1つの事業を仕組みにしていくポイントは、日本の福祉は、分野別、縦割りで作られており、分野ごとに丁寧に仕組みを作ってきましたが、縦割りの弊害が出始めており、そこに横ぐしをさして、包括的な仕組みに変えていくところです。これは、半田市だけではなく、日本全体で社会福祉の改革をしなければいけないというところに来ています。
- ・しかし、行政の仕組みや、制度も縦割りになっており、どう横ぐしがさせるのか、半田市でも包括な支援ができる仕組みをどう作っていくか議論していく必要があります。また、地域福祉計画については、それぞれの分野計画があり、各計画と整合性がとれているか、縦割りになっていないか見ていく必要があります。
- ・第2次半田市地域福祉計画までは、横ぐしをさすとは言っているが、具体的な各分野計画との整合性は描かれていないです。半田市は全国に先駆けて、重層

	的支援体制整備事業について取り組んでおり、それをブラッシュアップするためにどのような仕組みを作っていかなければいけないか、専門職だけではなく、地域住民・民生委員・保護司など、地域で活躍しているみなさんと連携しながら、負担を大きくするのではなく、負担を分かち合う仕組みをどう作っていくかが大切になっていきます。 ・あんなこともこんなことも必要だとなると、負担が大きくなってしまいますので、それぞれの分野等で行っている似た事業をスクラップして、本当に半田市に必要なものは何か、優先順位をつけてスリムにし、本当に必要なものをみんなで実施していくとよいと思います。 ・地域福祉はやればやるほど広がっていくので、第3次半田市地域福祉計画では、仕組みを作っていくと同時に、様々な施策の優先順位を明らかにしていくことが大切です。そして、この第3次半田市地域福祉計画期間の中で決めたことは実現できるようにすることが計画の役割です。 ・第3次半田市地域福祉計画は第1次・第2次の計画の延長ではなく、第2次半田市地域福祉計画を踏まえながら、新しい地域福祉計画を作るという気持ちで、地域福祉課だけではなく、様々な課・社協も一緒になって新しい地域福祉計画を作りなおす思いで皆さんと議論していけたらいいと思っています。どうぞよろしくお願いします。 （地域福祉課長） ・ありがとうございます。 ・半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第7条第1項により、委員会の会議の議長は委員長がなると規定されておりますので、これからの議事進行につきましては原田委員長にお願いいたします。
4. 議事	（原田委員長） ・それでは、会議を進めてまいります。報告事項の前に、事務局から現計画、「第2次地域福祉計画」と、この委員会の目的、役割などについて説明した後に議事に入った方がよいと思いますので、事務局、説明をお願いします。 （事務局） ○第2次半田市地域福祉計画により説明。 （原田委員長） ・半田市の包括的支援体制と問われたら、第2次地域福祉計画ではどこで示していますか。 （事務局） ・包括的支援体制については、P50 基本目標2「包括的・重層的・伴走的な相談支援で、あらゆる福祉分野の相談支援の充実と、複雑・多様な課題や不安を抱える方を早期発見」で、位置付けています。ツールとしては、関係機関がそれぞれのジャンルを超えて集まり、課題について議論していく「半田市ふくしまるごと会議」を実施して

います。

（原田委員長）

・P 4 7をご覧ください。

・半田市の地域福祉といった際に、市民の皆さんに、地域とは何・どこを指すのか問われます。その際に、半田市の地域福祉計画では、P 4 7の4つの層でとらえ、それぞれの層で事業やアプローチを行っていくことを想定しています。

・半田市の包括的支援体制について、第1層では半田市ふくしまるごと会議が象徴的という話がありました。この会議について、もう少し教えていただきたいです。

（事務局）

・重層的支援会議や生活困窮者支援会議など福祉分野における複数の会議を合同開催するもので、庁内・庁外の相談支援機関、関係機関等が一堂に会し支援困難事例等に係る協議等を行う会議で、月に1回実施しています。

（原田委員長）

・半田市ふくしまるごと会議にはどんな方が参加していますか？

（事務局）

・委員の、ちた地域若者サポートステーションの井戸氏や、田窪氏の他、社労士・弁護士・社会福祉協議会と市の各部署等が参加しています。

（原田委員長）

・半田市では、縦割りの分野を超えて、かつ福祉関係だけではなく全庁的に、事例について議論をする会議を、月に1回開催しているということです。半田市では、定着していますが、ほかの市町等では領域を超えた会議はあまりなく、半田市としての強みとしてこの会議を位置付けているということになります。

・教育委員会とは連携はありますか。

（事務局）

・教育委員会や建築課や収納課も半田市ふくしまるごと会議に参加しています。

・課題でもお伝えしますが、教育・福祉・子どもの連携について、重層子ども支援会議という0歳～18歳まで切れ目のない支援体制を築こうと会議をスタートしています。

（原田委員長）

・半田市では、福祉部局だけではない、全庁的な会議が行えていることを踏まえると、半田市の包括的支援体制の仕組みはあるが、それがわかりにくい、絵になっていると良いと思います。第3次半田市地域福祉計画は、これが半田市の包括的支援体制であるということが、言葉だけではなく、市民の皆さんにもわかりやすいような、システムの絵を描いていくとわかりやすくなると感じています。

・P 4 7の1層～4層の枠組みについて半田市では定着し、うまく機能していますか。

（関委員）

	・長く民生委員を務めているが、1 層～4 層の図は初めて見ました。大きな枠組みとしては把握していましたが、言葉だけではなく、このような図を描いてもらえると市民も理解しやすいと思います。また、周知についてもしっかり行っていただきたいです。 (石井委員) ・身近な地域で動いているが、防災について繋がりをもってやっています。 (榊原委員) ・P 4 7 の図はきれいに輪ができていますが、半田市は、学校区と自治区が入り乱れているので、図のようにきれいに分けられないことが課題だと感じます。 (原田委員長) ・民生委員はいくつに分けられていますか。 (関委員) ・8 つです。 (原田委員長) ・様々な区分けがあるので、どのように整理するかも課題だと思います。
(1) 報告事項 ①地域福祉計画に係る令和5年度事業報告 ②地域福祉の現状と課題について	(事務局〈市〉) ○資料 P 5 ～ 1 4 により説明。 (事務局〈市〉) ○資料 P 1 5 ～ 1 8 により説明。 (原田委員長) ・報告事項①②が、大事なポイントです。現在、半田市の地域福祉には、このような課題があり、それを解決するために第3次半田市地域福祉計画を作っていきます。報告事項のほかに課題と思うことや、議論が必要なことがありましたらご意見いただきたいです。 (中村委員) ・外国籍というのは、ここ10年～15年でどのくらい変わってきていますか。 (事務局) ・半田市全体の人口は減少していますが、外国籍の人口は増え続けています。 ・外国籍支援の課題としては、文化や言葉の違いにより支援に入りにくいことや地域のコミュニティに入れないことがあります。 (中村委員)

・外国籍市民は、中学校区ではどこが多いですか。

(事務局)

・乙川中学校区が多いです。県営住宅があるところが多く、さくら小学校区も多いです。

(中村委員)

・先日、半田市の教育懇談会があり、学校側の問題点は、言語の壁が大きいとのことでした。また、特別支援が必要な子どもについても地域に固まっており、地域ごとの支援が必要だと感じました。今後も増えていくと思うのでやはり課題だと感じました。

(原田委員長)

・子どもと若者の課題に追加して外国籍も入れていくといいと思います。

・次回、半田市で外国籍の方がどれくらい増えているのか数も示していただきたいです。

・半田市は外国籍とまとめているのか、外国にルーツのある方としていますか。

(事務局)

・外国籍市民と呼んでいます。

(原田委員長)

・国籍は日本にしているが、外国にルーツがあって言語の壁等がある方もいると思うのでそこも議論いただきたいです。

(三輪子育て相談課長)

・子どもと教育の分野では、数をきちんととらえることは難しいですが、大体の数は把握しており、施策としても取り組んでいるので入れていきたいです。

(関委員)

・P 6 の R 5 年度 of 取組み等で、「避難行動要支援者名簿に記載されている要支援者と民生委員で施設へ避難する訓練をおこないました」とあるが、どの地区がどの程度行われているのですか。

・P 1 5 の基本目標 1 (2) 防災・減災の推進 ①災害時避難行動要支援者制度の充実の課題で、「平時から要支援者と地域住民の顔が見える関係づくりができていない」、「要支援者の避難訓練への参加や個別避難計画の活用が限定的である」とあるが、民生委員がさぼっているのではなく、行政へ働きかけをしているが、できていないところがあります。民生委員が動けるように施策を決めていただきたいです。

(事務局)

・避難訓練について、場所は板山の愛厚新生寮で実施し、内容は「地域の方が直接避難してきたらどのように対応するか」というテーマで、福祉避難所の開設訓練を実施しました。そのため、民生委員や要支援者の方には個別で声をかけさせていただき開催しました。参加された民生委員は 1 名、要支援者の方は 1 名とその家族です。

(関委員)

・事業報告に載っている内容だと、とても大きな事業を行ったと感じます。

	(事務局) ・表現について気を付けます。 ・また、顔の見える関係づくりの点は、民生委員がさぼっていると言っているのではなく、自記式で対応しているため、件数は伸びていくが、実際の作成から関係者の方にかかわっているケースが少ないため、課題に挙げさせていただきました。 (関委員) ・課題ということで、民生委員も協力していきますが、地区の高齢者等を把握することは住んでいる地区で行うことが必要で、民生委員を除外して行うことはできないものなので、もう少し踏み込んで行っていくべきだと思います。我々民生委員も名簿を預かっている以上、紙切れにしないよう活動しているので、何を実施したか、地域住民にもわかりやすいものにしていただきたいと思います。 (原田委員長) ・個別に民生委員が対応したものを、民生委員全体がやったような表記をすると、間違っ理解されてしまうことがあります。民生委員個人が関わるのではなく、民生児童委員協議会の組織として、どのように地域福祉に関わっていただくかが課題だと思います。それも含めて、災害の視点は第3次半田市地域福祉計画へ盛り込んでいく必要があります。 ・子ども・若者についての課題は、時間をとってしっかり議論していく必要があります。
(2) 協議事項 ①第3次地域福祉計画の策定体制及びスケジュールについて	(事務局) ○資料P19～20により説明。 (原田委員長) ・策定委員としては、計画策定までに本日の含む5回の出席をしていきます。その中で、専門部会や策定調整会議で議論をいただき、出てきた提案について、議論し深めていく場となります。 ・専門部会が3つ予定されているが、総合相談についての検討はどの部会になりますか。 (事務局) ・専門部会については、現時点の想定となっており、今後アンケート等をする中で決めていきます。そのため、まだ、総合相談についてはどこの部会で行うか決まっていません。 (原田委員長) ・専門部会は重層的支援会議をイメージされていると思うが、半田市の場合は、半田市ふくまる会議を含めて総合相談支援の仕組みづくりを議論いただく場を一度検討していただきたいと思います。 (事務局) ・検討します。

②市民アンケート調査について	(原田委員長) ・策定委員の皆様にも、専門部会でも関わりをもっていただきたいです。 (事務局) ・アンケートの集計を行い、課題を抽出した２月ごろに個別で専門部会への相談に伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。 ○資料 P 2 1 ～ 2 5 により説明。 ・基本的には前回のアンケートと同様です。前回の結果と比較し、その差異から地域や社会の情勢変化を捉えて、次期計画に反映していきます。 ・変更点は、P 2 2 の問 1 0、孤独への意識についての質問を追加しています。孤独孤立対策推進法が成立した関係で、国の設問案と同じものになっています。その他、現在の状況に応じた言い回しに変更していきます。 ・アンケートの対象者は、無作為に抽出した 2, 0 0 0 人に 1 2 月初旬に送付します。回答は、返信用封筒で回答いただくか、Q R コードを掲載し W E B で回答いただきます。 (原田委員長) ・アンケート調査が元になり、今後の施策につなげていくものなのでとても重要な調査となります。内容は、前回調査との比較をするため、あまり変えてはいけませんが、せっかくのアンケートなので、ほかに聞いたほうが良いこと等がありましたら発言をお願いします。 (榊原委員) ・地域福祉に関心がない方が答えた際に、問 1 2 である「地域に貢献」とあるととてもハードルが高いため、「今後どのようなことで地域に関わることができますか」等、もう少し柔らかい表現に変えたほうがよいと思います。 ・問 1 9, 2 2, 2 3 について、誰もがどこかに当てはまる前提の質問になっているが、該当しない人が回答できるように「特にない」など、誰もが答えられる回答があったほうが回答率が上がると思います。 (事務局) ・変更します。 (立石委員) ・無作為に抽出するということだが、これは日本人のみの対象ですか。課題として、外国籍の問題もあるので、ほかの言語等でも対応していきますか。 (事務局) ・日本人に限らず抽出し、外国籍の方が対象になった場合は英語等、訳をつけて送ります。
-----------------------	--

(山崎委員)

・問 1 8 について、「大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、誰を頼りにしますか」とありますが、被災後の生活でよいですか。助け合いについて聞いていますが、避難する際にどうするのかは聞かないでよいですか。また、頼りにしますか、という表現が、本人の希望として頼りにしているのかを聞きたいのか、災害が実際に起こった際に実効性のある支援者がいるのか聞きたいのか教えてください。やはり、災害時は実効性のあるものが大切になってくると思います。

(事務局)

・問 1 8 は、半田市の支えあいについて、回答者の意識を調査したいと考えており、災害が起こった際に、被災後の生活についてどなたを主軸にしているかを聞いています。家族が一番多いと想定されますが、自主防災組織や社会福祉協議会等の公助・共助の部分の認識のための質問となっています。実効性についての設問は、必要なことだと思うので改めて考え、本日頂いたご意見を反映させたものを、アンケートを郵送する前に委員の皆様を送ります。

(中村委員)

・半田市の在住年数によっても回答にばらつきがあると思うため、設問の追加をお願いします。

(事務局)

・設問を追加します。

(関委員)

・2, 0 0 0 人を無作為に抽出するにあたり、地域のかたよりがないようにしていただきたいです。

(事務局)

・地域や年齢について、偏らない抽出方法にします。

(田窪委員)

・アンケートの翻訳について、英語のみの翻訳ですか。母語が英語ではない人も多いと思うので英語以外の言語も検討いただきたいです。

(事務局)

・出来るだけ多くの言語に対応できるようにします。

(原田委員長)

・地域福祉計画のアンケートに入れるかという問題がありますが、高齢者関係での身寄りのない方へのニーズについては、介護保険事業計画を作成する際には聞いていますか。

(沢田高齢介護課長)

・計画策定の段階で、身寄りの有無を聞く項目はないです。

(原田委員長)

・国で、身寄りのない方への支援をどうするかという検討を行っています。補償の問題や亡くなったあとの問題等、さまざまなニーズがあると思うので、地域福祉計画のアンケートではなくても、高齢者関係のアンケートを今後実施する際は聞いていただきたいです。

・議事は以上となりますが、第3次半田市地域福祉計画に向けて、議論していきたいことやここは大事であるという意見があればお願いします。

（榊原委員）

・P15に「指定避難所の福祉避難所のスペースを整備するため、福祉スペース設置ガイドラインを作成し、各避難所に配備した」とあるが、防災活動を行っている中で、このような話を聞いたことがなく、どこに配備されているのですか。

（事務局）

・各避難所の倉庫にある避難所開設物資の中に防災安全課が配備しました。ガイドラインは、一般的なものなので、各避難所に合わせたものではありません。

（原田委員長）

・ガイドラインだけ倉庫に入っているといざというときには使用できないため、事前確認し、訓練等で活用するために周知も行っていくべきです。

・災害のことがやはり多く課題となっていますが、防災安全課とは連携が取れていますか。

（事務局）

・今まで、福祉課題プロジェクトで防災をテーマに実施してきたため、密に連携が取れていましたが、現在の協議の場は、災害対策本部の救護部という場のみとなっています。

（原田委員長）

・策定調整会議に防災安全課は入っていないくてよいですか。

（事務局）

・策定調整会議には、福祉関連の担当課に出席を依頼しています。しかし、防災関連には課題があると感じていますので、それに関する専門部会を立ち上げる想定はしており、そこには依頼する予定です。

（原田委員長）

・災害・減災のことを議論するにあたっては、防災安全課との連携は欠かせないと思います。どこの自治体も要支援者の部分は福祉部に丸投げだが、実際に災害が起こった際は防災交通課が指揮をとっていかなければならないので、そこを計画としてどのように整理していくかを庁内で考えていただきたいです。

（森川委員）

・前回の専門部会で、防災について検討したが、縦割りで決められるところ、決められないところが出てきて上手くまとめられず、苦肉の策でガイドラインを作成しました。置き場等については課題があると感じました。第3次半田市地域福祉計画では細かいとこ

	ろを詰めていきたいと感じました。 （原田委員長） ・ありがとうございます。このような議論を行いながら良い地域福祉計画を策定していきたいと思いますのでよろしくお願いします。
５．その他 （連絡事項等）	（地域福祉課長） ・原田委員長、ありがとうございました。 ・それでは、事務局から事務連絡です。 （事務局） ○チラシ「第３次半田市地域福祉計画策定キックオフ講演会」、「ふくしのお仕事紹介イベント」について説明。 ・第２回は令和７年３月１７日（月）１５時３０分開始、会場は市役所庁議室（４階）となります。 ・これをもちまして、令和６年度第１回半田市地域福祉計画策定委員会を終了します。ありがとうございました。
	（終了）